

## 学校法人五島育英会 平成 21 年度事業報告書

### 1 事業の概要

平成 21 年度は、武蔵工業大学が、東横学園女子短期大学との統合により東京都市大学となり、併せて高等学校から幼稚園までの設置学校が同じ「東京都市大学」の名を冠して、「東京都市大学グループ」を形成した年度である。これを契機として設置各学校が建学の精神を尊重しつつ、都市大グループ全体が教育理念、教育目標を共有するための「東京都市大学グループ 理念と目標」を策定し、学園の総合力を発揮する「都市大ブランド」を確立し、厳しい学校間競争を勝ち抜くための指針とした。都市大グループの誕生により、高大連携等法人内における学校間の連携強化を重要な取組みのひとつとして捉え、高大連携推進委員会を設置し、その具体的内容について検討してきたが、平成 22 年度より「高大連携委員会」として常設とすることを決定した。

東京都市大学では、より先進性の高い都市生活学部、人間科学部のふたつの学部を開設。又知識工学部に自然科学科を設置、同学部応用情報工学科を経営システム工学科と名称変更した。これにより本学は、5 学部 16 学科を擁し、幅広い分野を有する新しい時代に相応しい教育体制を整えた。又早稲田大学との原子力分野の共同大学院設立について平成 22 年度開設を目途として、渋谷区にサテライト教室を開設する準備を進めた。

東横学園女子短期大学、東急自動車整備専門学校は、在学生全員が卒業したことから、平成 21 年度末をもって計画どおり廃止とした。(寄附行為については認可申請中)

又東急自動車整備専門学校の廃止により、東急自動車学校は法人の収益事業として位置付け、平成 22 年 3 月 29 日文部科学省の認可を得た。なお、同校は、東京都多摩市唐木田に移転し、平成 21 年 12 月から新規営業を開始した。

広報活動においては、引き続き「都市大グループ」の誕生に伴う認知向上及び理解促進に向けブランド作りの基盤となる広報活動を重点的に行った。人事面においては、初等中等教育学校(幼稚園・小学校・中学校・高等学校)に、学校を機能的に運営するため、新たな管理職として「主幹教諭」を配置した。又東京都市大学にCSを推進する部門「CS・人材開発室」を新たに設置し、事務職員を中心に全学的な取組みとしてのCS活動を展開し、更に質の高い学生サポート体制を整備した。

財政面においては、教育環境の充実と老朽施設設備の更新を続けながら一層の経費節減を図っているところであるが、本年度消費収支差額は 1,877 百万円の収入超過となった。これは、土地売却等収入があったことと基本金組入額が予算より減少したことが主な要因である。

## 広報

「都市大グループ」が新たなスタートを切った平成21年度においても、名称変更及びグループ全体の認知向上及び理解促進のための広報活動のさらなる充実・積極的展開を目指し、五島育英会広報委員会を中核とした広報活動を行った。

### 募集広報

都市大等々力中学校・高等学校における共学部開設等、さらに改革を続ける各学校の募集広報等が円滑かつ効果的に展開できるよう、各種媒体を積極的に活用し広報活動を行った。

### 一般広報

「都市大グループ」の誕生及び各学校の名称変更後のスタートに伴い、以下の広報活動を展開した。

「都市大グループ」の更なる認知度向上および理解促進を目的として、各種媒体を利用した広告宣伝を継続的に行った。

「都市大ブランド」形成の中核となる教育研究や産学連携等の成果を広く世の中に伝え、共感してもらうために、パブリシティ活動を積極的に行い、情報発信を強力に推進した。グループ全体の教育理念や目標、ブランドビジョンを積極的に発信した。

シンボルマーク及びロゴタイプを含むV I (ビジュアルアイデンティティ)のガイドラインを効果的に活用し、グループ全体の統一感あるイメージをもった広報活動を行った。

社会動向や各学校の評価を収集・分析のため、定常的な情報収集を行った。

アニュアルレポート(年次事業報告書)を作成し、ステークホルダーへグループ全体の年間の取り組みを報告した。

### (3) 内部広報

グループ全体の改革に伴う情報や価値観の共有へ向けて、「東京都市大学グループ『理念と目標』」の冊子を作成し、グループ全体に通底する価値観を可視化し、携行できるようにした。

事務職に導入を開始したC S活動についての情報が共有できるように、職員専用のウェブサイト内に専用ページを立ち上げ、その情報発信を支援した。

## 人事

### [職員配置]

平成21年度の職員配置については、東京都市大学が、5学部16学科体制となったことから、教育研究体制の整備を行い、更に質の高い教育が実践できる人員配置とした。事務組織については、世田谷キャンパスに「C S・人材開発室」を設置し、全学的な取り組みとしてのC S活動を展開し、職員の意識改革と待遇改善を推進するため、職員研修

を体系的に行い、学生サポート体制の充実を図った。

又、初等中等教育学校においては、新たな管理職員として「主幹教諭」を13名配置し、学校を機能的に運営するとともに、高大連携をはじめとする各設置学校間の連携を緊密に行い、都市大グループのスケールメリットを生かした教育活動を展開した。

#### [ 新人事制度の実施 ] ( 目標管理評価制度 )

平成21年度は、平成19年度より導入している事務職を対象にした新人事制度(目標管理評価制度)を定着させ、職員の意識改革、資質向上を目指した研修を実践し、「職員力」の強化に取り組んだ。

又、初等中等教育学校においては、平成22年度より教育職員に対し新人事制度導入を決定し、教員の能力及び資質向上を図り、人材の育成と活用、学校組織の活性化に取り組んだ。

### 財務

財務活動において学校法人会計基準に加えキャッシュフロー計算書、損益計算書を作成し、業績評価、投資評価に活用し、財務の安全性と事業運営の健全性を向上させるべく取り組んでいる。

施設等整備は、都市大学世田谷2号館建設、等々力中高校舎新築、自動車学校新築など施設設備関係支出4,897百万円を投資した。

経費は、管理経費を中心に見直しを徹底したことにより、教育研究活動によるキャッシュフローで対予算885百万円削減した結果、事業活動によるキャッシュフローは346百万円の収入超過となった。

損益計算書は、経常収支差額2,372百万円となり対予算960百万円増加し、土地売却等収入により帰属収支差額では4,754百万円の収入超過となった。

### 施設設備計画の実施状況

平成21年度に決定された事業計画の実施状況は、次のとおりである。

#### 1.平成20年度からの継続事業

##### (1)東京都市大学世田谷キャンパス新2号館新築工事

平成20年5月に着工した新2号館新築工事は平成21年6月30日に竣工した。

- ・ 設 計 東急建設株式会社
- ・ 工事請負業者 東急建設株式会社

- ・完了 平成 21 年 6 月 30 日
- ・建物の概要 鉄筋コンクリート造地下 1 階 地上 4 階建
- ・建物の概要 延床面積 4,845.86 m<sup>2</sup>

階層	面積	主要用途
B1F	977.51 m <sup>2</sup>	機器分析室・機械室他
1F	968.70 m <sup>2</sup>	教室・エントランス他
2F	933.25 m <sup>2</sup>	教室他
3F	983.00 m <sup>2</sup>	実験室・臨床実習室他
4F	983.40 m <sup>2</sup>	クリーンルーム・研究室他

## (2)東急自動車学校（多摩市唐木田）新築工事関連

東急自動車学校新築工事（多摩市唐木田）について、平成 21 年 11 月 30 日に竣工、引渡を受けた。

- ・設計 株式会社東急設計コンサルタント
- ・工事請負業者 東急建設株式会社
- ・完了 平成 21 年 11 月 30 日
- ・建物の概要 鉄筋コンクリート造陸屋根地下 1 階 地上 3 階建
- ・建物の概要 延床面積 3354.70 m<sup>2</sup>

階層	面積	主要用途
B1F	315.60 m <sup>2</sup>	検定待合室・スタッフルーム他
1F	315.26 m <sup>2</sup>	エントランスホール・バス控室他
2F	1,361.92 m <sup>2</sup>	フロント・事務室・カフェラウンジ他
3F	1,361.92 m <sup>2</sup>	教室・シミュレーション室他

## 2.平成 21 年度事業

### (1)東京都市大学 都市生活学部・人間科学部設置関係

東京都市大学都市生活学部・人間科学部設置計画に基づき、下記の通り建物及び設備の整備を実施した。主な事業内容は下記の通り。

#### 改修工事

##### ア 2号館改修工事

新学部設置計画に基づき教室・セミナー室等の内装工事を実施した。

- ・工事請負業者 東急建設(株)
- ・完了 平成22年2月

イ 2号館5教室の空調設備更新工事

老朽化による故障が頻発している空調設備の更新工事を実施した。

- ・工事請負業者 東急建設(株)
- ・完了 平成22年3月

什器・AV機器の購入

(2) 東京都市大学 原子力研究所廃炉関係

放射性同位元素使用施設の排水整備の新設工事

平成21年度計画により、放射性同位元素使用施設の排水設備の新設工事を実施した。

- ・工事請負業者 東芝電力放射線テクノサービス(株)
- ・完了 平成21年12月

放射性同位元素使用施設の補修・改修工事

平成21年度計画により、原子力研究所A棟1階放射線管理室～液体廃棄物処理室間各室の改修工事を実施した。

- ・工事請負業者 東芝電力放射線テクノサービス(株)
- ・完了 平成22年2月

(3) 東京都市大学 その他の改修工事

世田谷キャンパス3号館及び8号館B棟空調設備取替工事

- ・工事請負業者 (株)キャプティ
- ・完了 平成21年5月

東京都市大学世田谷キャンパス16号館1階改修工事について

- ・工事請負業者 東急建設(株)
- ・完了 平成22年2月

(4) 東京都市大学等々力中学校・高等学校

校舎改修工事

ア 体育館耐震補強工事について

- ・工事請負業者 東急建設(株)
- ・完了 平成21年9月
- ・備考 本件工事は国及び東京都から補助金の交付を受けた。

イ 共学化に伴う既存第一校舎男子トイレ新設工事

- ・工事請負業者 東急建設(株)
- ・完了 平成21年8月

校舎新築工事関係

ア 新校舎新築工事に伴うインフラ設備切廻し及び切替工事について

- ・工事請負業者 東急建設(株)
- ・完了 平成21年8月

イ 新校舎新築工事

平成21年10月18日に起工し、継続中である(事業完了予定は平成23年7月)

- ・工事請負業者 東急建設(株)

(5) 東京都市大学塩尻高等学校

中央館耐震工事

- ・工事請負業者 東急建設(株)
- ・完了 平成21年9月
- ・備考 本件工事は国から補助金の交付を受けた。

中央館トイレ改修工事

- ・工事請負業者 (株)小野組
- ・完了 平成21年10月

**高大連携**

高大連携委員会を組織し、東京都市大学グループの関係強化を図るため、具体的内容について検討・協議を行ない、下記項目について決定した。

附属3高校の東京都市大学進学希望者原則全入制度

高校での入学前教育の徹底

大学におけるリメディアル教育の充実発展

高校の東京都市大学へ向けた進路指導の充実

平成23年度入試大綱

高校生の大学講義の履修と単位認定制度

高校生・大学生の交流

高校生・大学生の合同活動における交流

部活動・サークル活動・学習活動における交流

## 収益事業部門

### 五島育英会ビル

賃貸ビル市況悪化の中、一部賃料改定を行なった。一方、ビル管理業務の検証を行い効率化を進め費用の削減を図った。

### 東急自動車学校

混乱を生じることなく、二子玉川での営業を終了、多摩市唐木田での営業を開始した。

唐木田での営業開始において、各種媒体で様々な広報活動を行い、本校知名度の浸透を成功させ、入校者数等順調なスタートとなった。

組織を統合削減するとともに、人件費削減策として待機・残業のチェック等を強化した。

卒業生アンケート、接遇トレーニングをとおして、サービス活動を推進した。

## 教学部門（設置学校の具体的取組み）

### 東京都市大学

#### 1 学科改組の検討（全学）

将来構想検討会を設置し、第一次改革案を策定した。

#### 2 外国語教育向上の取組み（全学）

外国語共通センター準備委員会において世田谷キャンパスと横浜キャンパスの外国語科目の共通カリキュラムを検討。平成22年度からは都市大スタンダードとしての授業科目をスタートさせる。

#### 3 授業改善活動の推進（工学部）

各学科の授業関係システムの構築を促すために、工学部教務委員会を主体とする回収・改善システムに改めた。又、老朽化した5学科の実験実習設備機器を更新し、その授業の改善を進めた。

#### 4 他大学及び産業界との連携強化（工学部）

##### 室蘭工業大学との計画に沿った連携活動

室蘭市で水素燃料バスを運行、多くのマスコミに取り上げられた。又授業・研究面でも交流成果を得た。

##### OB会との連携による就職・研究連携

各科OBをリクルーターとして、企業説明会、OB訪問等により、大企業を中心に就職実績を残した。さらにOBとの連携による受託研究は14件に上った。

#### 5 偏差値向上の努力（知識工学部）

#### 高校への訪問講義の活性化

訪問講義の回数を昨年比倍増の24件とした。

#### 教育の充実と広報

- ・各学科でシラバスの再検討を実施。
- ・志願者数は370名増(昨年比112.6%)

#### 6 競争的資金の獲得(知識工学部)

科学研究費申請を積極的に推進し、申請件数を前年度の39件から54件、採択件数は6件から10件に増加した。又主任教授を審査委員として、研究業績評価による予算の重点配分を実施し、研究資金獲得のインセンティブを高めた。

#### 7 専門科目における英語力向上の取組み(環境情報学部)

学部の授業では、前期14科目、後期10科目で、数回の講義に英語で授業を行うなど、専門科目に英語を取り入れた。大学院では、英語のみで修了できる「留学生のための博士課程特別プログラム」の実施案を策定した。

#### 8 外部資金の獲得(環境情報学部)

科研費及び受託研究の件数は昨年並みとなったが、受入れ金額は3年間着実に増加している。

#### 9 実践力のある街づくり専門家の育成への取組み(都市生活学部)

必須科目及び選択必須科目により基礎的スキルの習得を行い、数多くの科目で実例中心の講義づくりを実施。又2週間の海外研修を実施した。

#### 10 きめ細かい学習指導による学習意欲の向上(都市生活学部)

フレッシュアズゼミにおいて、11~15名を1クラスとして、専任教員全員が指導を担当し、自己分析、キャンパスプランの作成、レポート課題を基とした読破力、論理構築力、発表力の育成のため個人単位での指導を行った。

#### 11 質の高い保育者養成機関としての取組み(人間科学部)

学生の児童教育・福祉施設・その他による現場体験において、自主的な参加が向上した。

#### 12 地域への貢献(人間科学部)

子どもの環境と建築に関する学術講演会を開催し、地域住民等の参加も得た。又案内ポスターによる広報活動も行い、地域への貢献と新学部認知度向上に努力した。

東京都市大学付属中学校・高等学校

#### 1 校務運営の円滑化

主幹教諭を配置。学年主任・担任及び分掌主任等を指名制とした。



- 2 学校間の連携・交流  
都市大塩尻高校と野球部・バスケット部の合同練習を実施。吹奏楽部は都市大塩尻高校の卒業式に参加、同校吹奏楽部とのコラボを実現。又両校間で合同教員研修を実施した。
- 3 定期試験・外部模試等、結果の綿密な検証  
教科会議又は進路部主催の結果分析会を開き、現状と課題を明らかにした。
- 4 習熟度別クラス編成の再構築  
習熟度別クラス編成は、高校全学年に加えて今年度、中3学年で創設。英数平常補習の成果と課題を明らかにし、講座の精選を図った。
- 5 英検・漢検の取得目標の達成  
英検対策講座・漢検対策授業を強化し、それぞれ目標数値を達成した。
- 6 教員の授業力向上  
「生徒による授業評価アンケート」を実施、その結果を受けて結果分析会・教科研修・公開授業等を実施。
- 7 センター試験、模試偏差値の目標値達成（大学進学実績の向上）  
全体的に昨年より向上したが、目標値未到達。  
授業への集中力向上、又入試対策を徹底することとした。
- 8 難関大学現役合格者の倍増、目標数値の達成  
進路指導を強化。早慶は大幅に実績を伸ばし、ほぼ目標を達成。
- 9 クラブ活動の更なる活性化  
世界大会、全国大会等部活動のみならず教科、個人活動での実績も顕著。
- 10 受験者数の維持  
昨年度実績（1,346名）を上回る受験者数（1,728名）を達成。
- 11 道徳心・愛校心  
道徳教育の確立、式典での校歌斉唱等の徹底。
- 12 校務システムの構築と効果的運用  
校務システム担当教員と業者の連携が進展した結果、校務システムへの対応が教員間で広く認知され、運用できるレベルに到達した。
- 13 教員研修制度の積極的運用  
法人指定の初任者研修・中核教員研修を始め、校内全体研修・個人研修等を遂行し、教育力を高めた。

東京都市大学等々力中学校・高等学校

1 学力の底上げと四大現役進学率の向上

四大現役進学率 76%、SS55以上の指定校数 4校、センター試験受験率 22%  
代ゼミ模試平均偏差値文系 47.4%理系 41.6%

中学平均偏差値 5科 中147・中245・中344 3科 中149・中246・中345

英留コース希望者の英語力強化 6名全員英検準2級取得

2 職員研修の充実

資質向上と共学部開設のため、全職員参加による全体研修を精力的に行った。

3 生徒会活動・特別活動への積極的な取り組み

都市大グループ学校間連携、8支部内の生徒活動などを利用しながら部活動の活性化や特別活動の充実を図った。

命の大切さを育む教育の推進

菜園づくりはマスコミで取り上げられる等成果を残した。目標として掲げた救命講習は完全実施した。

4 共学部新設に伴う各種教育プログラムの構築（全教職員による特別チームで実施）

4つの特色ある教育

システム4A システムLiP 理数教育支援 英語国際教育支援

生徒会活動・生徒指導・制服・広報・校舎・教務

教科指導ビジョンとシラバス

キャリア教育プログラム

ノブレス・オブリージュの教育

5 生徒募集の成果（定員の確保）

説明会を精力的に実施、教職員の努力により定員の確保を達成。

東京都市大学塩尻高等学校

1 デュアルシステム

社会性（情操教育）の習得（人と地球に優しい人間づくり）

2 学科・コースの再編成計画の立案

学科・コースの再編成に基づく新カリキュラムを作成。

3 学科再編成に基づく新カリキュラムを作成した。

4 都市大グループ内での学校間連携強化

教職員の交流と研修、生徒間交流を具体化した。

5 授業内容の充実

生徒の目からみた授業アンケートを実施。シラバスをネットワーク化、閲覧可能とした。

- 6 学力向上等への取組み
  - 特別講座、塾・予備校との連携
  - 特別講座の強化と総合的学習での進学補習、クラブでの個人指導、教科指導を実施。塾・予備校による講座の開設。
  - 就職希望者内定率100%を達成。
- 7 生徒活動への取組み
  - 部活動の活性化のため、体育館・スポーツ施設・男女寮・指導者の充実に取り組んだ。
  - 生徒会活動を活発にするため、指導を強化した。
  - 生徒会行事を自主的活動で成功させるため、担任、クラブ顧問が尽力した。
  - 家庭との連携強化を行った。
- 8 教育的な指導を十分に行うことを目的として、二学期制から三学期制へと転換した。
- 9 進路指導部を中心として、外部模試の実施、高大連携の動きを強め、生徒の学力向上に努めた。
- 10 充実した授業のため、教材研究、研究授業や公開授業を行い、授業評価の面で全職員の平均点が前回は上回った。
- 11 都市大研究室との共同研究や都市大見学、模擬授業等実施した。
- 12 募集定員を確保した。
  - 東京都市大学付属小学校
    - 1 新指導要領に関連した授業時数等の再編を行った。
    - 2 情報メディア教室、体験教室等とおし自学力の育成を図った。
    - 3 教育カリキュラムと行事の再編を行った。
    - 4 新施設での教育機器と学校内ネットワークの充実を図り、効果的に校務を実施することを可能とした。
- 5 学習設計
  - 4 教科学力向上をはかり、全国標準学力検査等の結果において効果を上げた。
  - 基礎的な学力を高い位置で定着させるための指導を行い、漢字検定等の結果において目標を達成した。
  - 教員の質向上に向け、研究授業、学外研修等を積極的に行い、学習指導等の向上に努めた。
- 6 生活設計
  - 生きる力を育むため、特別活動等を充実したものにし、児童が学校行事に主体的な

関わりが持てるよう推進した

学期ごとの防災訓練、交通安全指導等を通じ安全災害に対する意識の指導を行うなど安全教育を充実させた。

挨拶、言葉遣い、服装、生活時間等につて生活指導をとおり、規律正しい人格を養成するために努力した。

#### 7 入試及び広報

幼児教室・外部説明会への積極的働きかけ、就学前児童の本校学校行事への勧誘等を行い、出願者は目標数を超え、331人となった。

模試等の結果において、男子・女子とも目標偏差値を達成した。

4教科学習プログラムを再編、国語特訓授業を効果的に進めた。又オリジナル算数テキストを活用した。

#### 東京都市大学二子幼稚園

- 1 基本的な生活習慣、季節、年齢に相応しい保育・行事内容、伝統文化等について実践した。
- 2 「望ましい経験や活動」に対して、こどもたちの育ちの違いを認識しながら対応した。
- 3 幼稚園と家庭生活がつながるような環境づくりに配慮した。
- 4 学年・学期・月ごとの「目標」「幼児の活動」「ねらい」「望ましい援助のあり方」について検証した。
- 5 「健康」について、食事の大切さ、生活リズム等について指導した。
- 6 自ら行動できる力、思いやり、協力、園の決まりの大切さに気づき、守ることをしっかりと指導した。
- 7 言葉の獲得や意味を理解していくために絵本等の読み聞かせを行った。
- 8 表現する課程を大切に自己表現を楽しめるよう、曲を聴く、わらべ歌遊び、リズム表現を入れて、具体的に物や身体、感覚を使うなど、イメージを豊かに持てるよう工夫した。

#### 東横学園女子短期大学

##### 1 就職・進路指導の強化

ガイダンス・個人面談及び模擬面接等を通じて強化を図り、就職率は85.5%となった。

##### 2 全員の卒業

指導強化により、全員が卒業した。

3 適切な学生指導

学生の適性・希望を考慮しながら、個別面談を通じ学生相談室とも連携を図り細やかな指導を行った。

4 基礎学力の向上

国語表現力、英語力のほかに保育学科のコアとなる科目をとおして基礎学力を向上させた。

5 表現力豊かな保育者養成

「演劇ワークショップ」、「保育内容表現指導法」等の授業を基本とし、又演劇鑑賞をとおして表現力を向上させた。

6 マナーの向上

オリエンテーション及び個々への呼びかけ等をとおしてマナー強化を図った。

7 子育て支援センター「ぴっぴ」

地域に受け入れられた要因を分析し、資料集を作成。利用者はさらに増加中。

東急自動車整備専門学校

1 在校生全員（26名）を卒業させた。

2 自動車整備士国家試験の合格率73.1%

3 就職に向け、社会人としてのマナー教育を強化、地域清掃等のボランティア活動を実施

4 学生の教育・指導にあたる傍ら、全員一丸となって閉校に向けた諸作業を行った。

以上